

# 伊方原発3号に迫る中央構造線の危機

## トルコ・シリア大震災の東アナトリア断層と関連性

何度も差し止められた理由がここに

広島高裁仮処分でも「断層調査は不十分」

2023年3月10日 山崎久隆(たんぼぼ舎共同代表)

### 伊方原発は二度も差し止められた

四国電力伊方原発3号機の安全性に問題があるとして住民3人が運転差し止めを求めた仮処分の即時抗告審で、森一岳広島高裁裁判長は2020年1月17日に運転を差し止める決定をしました。運転差し止めの司法判断は2017年の広島高裁決定に続き2回目で、高裁段階の差し止め決定も2例目でした。

しかし、これらの差止決定はいずれも四電の不服申し立てにより棄却されたため、住民側が抗告し、2

023年3月24日に仮処分の判断が再度、示されることになっています。仮処分決定は直ちに効力が生じるので差し止め決定が出れば伊方原発3号機は直ちに止まります。注目し、情報を広めましょう

何度も差し止めが出された理由の一つは、伊方原発の近傍にある中央構造線です。

### 基準地震動650ガルは余りに過小評価

2020年の広島高裁の差し止め決定では、原発の敷地の2キロ以内に活断層がある可能性は否定できないことを認めています。原発は中央構造線の至近距離にあり、全面活動をした場合、すさまじい揺れと地盤の崩壊などが起きるでしょう。ところがこの原発は、基準地震動650ガルで耐震評価が行われ許可されています。

この値は阪神淡路大震災の神戸海洋気象台での818ガルや中越沖地震の柏崎刈羽原発1～4号機の最大加速度は2300ガル、5～7号機の最大加速度は1209ガルに比べてもあまりにも過小です。

これが実際に起きた揺れの大きさです。伊方原発が想定しなければならないのは、実際に起きた地震は全て包みこむ程度の基準地震動でなければなりません。

### トルコの東アナトリア断層と同様の危険性がある

中央構造線が大きく注目されるべきなのは、トルコ・シリア大震災の東アナトリア断層と関連性があるからです。

2月6日にマグニチュード7.8と7.5の地震が連続して起きた地震で両国で5万人以上が犠牲にな

りました。

広島大学

の奥村晃史特任教授は「日本の地震学・活断層研究に対するインパクトはとて大きいと思う」として、東アナトリア断層と中央構造線の関係を指摘します。



地震本部：伊予灘間が活動するとM8.0程度もしくはそれ以上の地震が発生すると推定され、その際に8m程度もしくはそれ以上の右横ずれが生じる可能性

1980年代からトルコを訪れ、活断層の研究を行ってきた奥村教授は、2月6日のトルコ・シリア地震は300キロにわたる東アナトリア断層で連続して巨大地震が起きましたが、断層内で3つに分かれていた部分が連動して最初の地震が起き、この地震が北側の2回目を誘発したとみているそうです。

一方、中央構造線断層帯も10もの区間に分割されて評価されていますが、複数の区間が連動して動き、他の断層が誘発されて地震を起こす恐れが指摘されています。

「連動の誘発をきちんと予測することはとても困難ですが、それによって起きる最悪の事態を想定し、

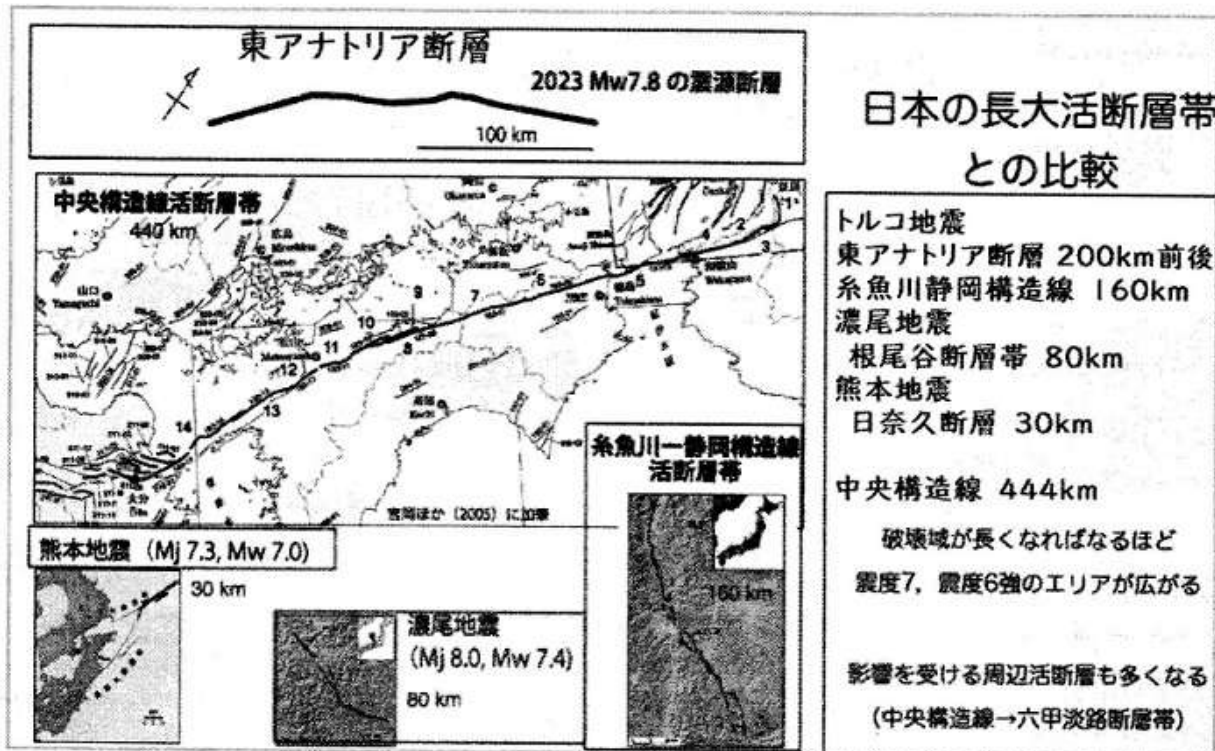
万が一に備える、これは必要ではないか」と岡村特任教授は語っています。(以上、テレビ朝日より)

中央構造線では、南の熊本で2016年4月14日に熊本地震が起きました。ここでも断層が2日後に連続して動き、大きな被害が出ています。

中央構造線は1556年9月1日慶長伊予地震、1596年9月1日または9月4日には慶長豊後地震、9月5日には慶長伏見地震が連続して起きています。いずれもマグニチュード7から7.8に達したと推定されています。

南海トラフ地震の震源域の北端に沿って走る中央構造線は、世界でも有数の活断層帯であり、過去にも連続して動いた歴史もあり、南海トラフ地震と前後して連動することも想定しなければなりません。

東アナトリア断層では地震で地盤が4メートルも変位したと推定されています。これだけの変位が原発直下で起きた場合、建ってられるとは思えません。



## 地震列島日本に原発を建てる不合理

東日本大震災から12年。震災や津波で被災した地域では、復興が進んでいるところも増えてきました。しかし双葉、大熊町及び浪江町などでは、依然として広大な区域が「帰還困難地域」とされ、居住も生産もできません。また、3万人以上の人々が避難生活を余儀なくされています。

地震や津波を止めることはできません。私たちにできることは、「備える」ことだけです。地震・津波の防災計画や避難訓練が盛んに行われるようになってきましたが、原発震災には対策はありません。それは今の被災地が示しています。

再び原発震災を起こさないためには、原発をなくすしか方法はないのです。

2011年3月11日の東日本大震災と原発震災は、火山列島、地震列島である日本に原発を建設すること自体が無謀であることを証明しました。その後も地震活動や火山活動は活発化しており、南海トラフ地震も迫っているとされています。

再稼働や運転期間の延長などもってのほか。六ヶ所再処理工場近傍にも活断層が走っています。

いまこそ、全て止めましょう。